

今 想うこと

イエズス会司祭 小暮 康久

2010年に柴田潔神父の後を引き継いで、この高円寺教会でお手伝いをさせていただくようになってから、二年半の年月が流れました。

このような神学生の奉仕は「ミニステリア」と呼ばれ、司祭に叙階される前の司牧研修として大切な意味がありました。高円寺教会での二年半の「ミニステリア」は、私にとって、まさに司祭として生きていく自分の原点になるような大切な体験となりました。この場をお借りして、まずは高円寺教会の皆様、お一人おひとりに、心からの感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。そして最後の「いしづえ」の執筆にあたり、私が体験した高円寺教会の素晴らしさについて書いてみたいと思います。

高円寺教会の素晴らしさ。まず高円寺教会はいつも元気でした。初聖体前の小さな子供たちから、人生の大先輩の世代まで、教会の中はいつもあらゆる世代の人たちで溢れていました。人生の旅路のそれぞれの途上で、かけがえのない自分自身の信仰を生きるお一人おひとりの姿に触れることは、私にとって大きな慰めと励ましでした。神様は生きておられると。

また高円寺教会の「宣教への熱意」にも感動しました。入門係の方々はもちろんのこと、教会全体が、信仰の新しい仲間を温かく迎え入れようとする心で満ちていました。高円寺教会の皆さんの宣教にかける積極性は、本当に素晴らしいものと感動しました。「信徒の時代」と言われて久しいですが、高円寺教会は吉池神父様のお人柄もあると思いますが、司祭と信徒の協力、役割分担が素晴らしく調和していました。

2000年前、イエス様は使徒たちを派遣したように、今もこの世界の中に私たちを派遣したいと望んでおられます。福音の喜びを一人でも多くの人へ伝えていくこと、そこに私たちの喜びもあるはずであり、教会の希望と未来があります。高円寺教会にはその教会の希望と未来があると思います。

至らない点多々あった私を、司祭にまで育ててくださって本当に有難うございました。皆さんとお別れするのは本当に寂しいですが、私も新しい一歩に進んで行きます。きっとまた皆さんとお会いできる日を確信して。

感謝のうちに。